

## 音更町総合計画審議会会議結果（要旨）

会議名	第2回音更町総合計画審議会
開催日時	令和元年10月31日（木） 午後6時30分から午後8時35分
開催場所	音更町役場本庁舎4階特別会議室
委員出席者	阿部委員、岡田委員、岡庭委員、小川委員、梶谷委員、河田委員、白木委員、田中委員、土田委員、東端委員、野久委員、野村委員、畠委員、波多野委員、林委員、藤川委員、宮村委員、和田委員【計18名】 （欠席委員） 西川委員、鈴木委員【計2名】
町側出席者	岸本総務部長、荒井町民生活部長、重松保健福祉部長、傳法経済部長、鈴木建設水道部長、岩館庁舎改修技術担当部長（兼）建築住宅課長、福地教育部長、古田議会事務局長、杉本会計管理者、重堂企画課長、佐藤総務課長、青砥町民課長、高橋福祉課長、谷川保健センター（兼）地域包括支援センター事務長、早苗農政課長、深谷商工観光課長、下口谷都市計画課長、井原上下水道課長、草浦学校教育課長、岡本とかち広域消防事務組合音更消防署総務課長【計20名】 《事務局》渡辺企画財政部長、新名企画課参事（総合計画策定）、大井企画調整係長、田中同主任、松嶋同主事、津久井まちづくり政策推進員【計6名】 《委託事業者》株式会社道銀地域総合研究所・北嶋業務部長、渡邊研究員【計2名】 （欠席） 高山とかち広域消防事務組合音更消防署長【計1名】
議題・諮問内容	1 会長あいさつ 2 議案 （1）第1回町民ワークショップでの意見等について （2）第5期音更町総合計画評価結果の検証について （3）音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価結果の検証について 3 その他
会議資料	「第6期音更町総合計画」策定に係る町民ワークショップの概要、「第6期音更町総合計画」策定に係る第1回町民ワークショップ分野別での意見等、第5期総合計画推進管理評価調書等
会議結果	下記のとおり
出された主な意見等	<p>■ 議事（1）第1回町民ワークショップでの意見等について</p> <p>※意見等特になし</p> <p>■ 議事（2）第5期音更町総合計画評価結果の検証について</p> <p>【総合計画 第1章 元気あふれる産業のまち】</p> <p>（第1節 農林業の振興）</p> <p>委員： 畜産や酪農業の人手不足対策として、公共育成牧場は農業者から非常に期待されているため、牧場の維持管理等について更なる充実を図っていただきたい。</p>

事務局 : 関係機関と協議しながら、牧場のより良い運営を図っていく。

委員 : 急速に進んでいる農業のICT化に対応できるよう、農村地域における情報通信のインフラ整備について検討する必要がある。

事務局 : 第5期総合計画策定時は農村地域でインターネットが使用できなかったため、ADSL並みの速度の通信環境を整備したが、通信技術が急速に進んでいることで、当時の技術が古くなってきている。第6期総合計画の策定と合わせて議論していきたいと考えている。

#### (第2節 商工業、観光の振興)

委員 : 十勝川温泉を知ってもらうために、ピーアールの方法を考える必要がある。

### 【総合計画 第2章 住み良さと自然が共生するまち】

#### (第1節 環境との共生)

委員 : 世界的にプラスチックごみの削減が叫ばれているところですが、町として削減に向けた取組や今後の考えは。

事務局 : 意識啓発が重要と考えており、引き続き広報紙への掲載やパネル展の実施等で周知していく。

委員 : ごみをポイ捨てする人たちの意識を変えることは難しいので、例えば監視カメラを導入するなど、意識啓発以外の取組が必要ではないか。

事務局 : 監視カメラの導入は、プライバシーにも関わることであり、皆さん様々な考えがあると思うので、議論が必要。

#### (第2節 便利で安全な生活環境)

委員 : 避難場所を体が不自由な人も出入りしやすいようにする必要がある。

#### (第3節 快適な生活基盤)

委員 : 空き家の増加は治安の悪化や火災の発生等の危険性があることから、例えば、補助等により空き家を壊して更地にし、近隣地域の雪捨て場に活用する等、空き家の減少に向けた対策を充実させる必要がある。

事務局 : 空き家対策として、居住目的で空き家を購入した場合に費用の一部を補助する空家活用定住促進事業、老朽化した空き家の解体費用の一部を補助する老朽危険空家等除却事業、高齢者世帯の住み替えの際に従前の持ち家を空き家バンクに登録した場合に補助金を交付する高齢者等住み替え支援事業等を実施している。今後も、こういった事業を積極的にピーアールしながら空き家対策を実施する。

### 【総合計画 第3章 心豊かな人を育むまち】

#### (第1節 子どもの教育)

委員 : 少人数学級の取組によって、児童に対してきめ細かい指導ができています。更なる充実に向けて検討しながら取組を継続していただきたい。

事務局 : 国や道の動きを注視しながら、更なる充実に向けて検討していく。

#### (第2節 生涯学習)

委員 : 芸術文化大会参加補助金について、各高校への周知を徹底することが重要であると考えているが、該当者が漏れることのないための工夫はされているのか。

事務局 : 管内の全ての高校へ文書の送付によりお知らせするとともに、担当課の職員が常日ごろから新聞やニュースに目を凝らして情報を拾いながら、全道、全国に行くような団体へお知らせしている

委員 : まちづくり町民アンケートによる「文化財や史跡の伝承保存」の満足度が低下傾向にあるため、満足度を高められるような取組が必要ではないか。

事務局 : 例えば、町内史跡めぐりツアーの開催数を増やすなどの取組を行ったが、今後も、満足度を高められるような施策を行っていききたい、

委員 : 町内史跡めぐりツアーについて、説明員の高齢化が進んでいることから、知識や経験を次世代に継承するための対策を練る必要がある。

事務局 : 知識や経験を継承するためには記録に残すことが大事だと思っている。説明をしていただいている郷土史研究会の人と手を取り合いながら、進めたい。

委員 : 史跡の管理について、協働のまちづくりを進めるためにも、例えば草刈り等を地域に協力してもらう方法もあるのではないか。

#### 【総合計画 第4章 いつまでも健やかに、安心して暮らせるまち】

##### (第1節 心身の健康)

委員 : 心疾患に関しての今後の取組は。

事務局 : 保健指導により重症化の防止を行っており、引き続き実施していく。

##### (第2節 社会福祉)

委員 : 地域福祉に重要な役割を果たしているボランティアについて高齢化が進んでいるため、対策が必要ではないか。

事務局 : 非常に危惧している問題である。他自治体の先進事例などを参考にして、対策を考えていきたい。

委員 : 音更町は十勝管内でも人口が多いまちであることから、身近な相談場所としての地域包括支援センターの充実に向けた取組が必要である。

事務局 : 現在、身近な相談場所が1か所しかなく不足しているため、来年度、新たに設置する予定です。

委員 : 障がい者の就業について農福連携という考えがあるが、福祉分野と農業や商工業などの分野とのパイプづくりについて積極的に取り組んでいただきたい。

事務局 : 農福連携に取り組んでいる団体と今後も連携を図りながら積極的に取り組みたい。

#### 【総合計画 第5章 町民の力で働く、協働のまち】

##### (第1節 交流や連携、町民参加の推進)

委員 : 助け合いや支え合いの地域づくりのためには町内会の加入が基本であり、特に災害時の安全確保において町内会の役割が重要である。そこで、減少

している町内会加入率を高められるような取組を期待している。

事務局 : 今の時代の、地域の協力がなくても家族だけで何でもできるという空気が、町内会加入率の低下につながっていると感じている。しかし、大災害の発生等のいざというときに、隣近所や町内会の助け合いなしでは命が守れないと考えている。町内会加入促進は重要なテーマの一つであり、今後も粘り強く取り組んでいく。

委員 : 伊福部昭さんがつくられた音更町歌を知ってもらうために、歌詞カードを各町内会に配布してはどうか。

委員 : まちづくり町民アンケートの回答率とその傾向は。

事務局 : 回答率について平成28年度は51.2パーセント、29年度は41.5パーセント、30年度は43.1パーセント、本年度は39.9パーセントで、傾向としては年度によって上下している。

委員 : 働き方改革が進められているが、子育て世帯の労働環境の向上に向けた取組を行っている企業を評価するような仕組み等について検討が必要である。

### ■ (3) 音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価結果の検証について

#### 【総合戦略】

(基本目標2 移住・定住の促進、交流の拡大)

委員 : ガーデンスパ+勝川温泉や新しい道の駅などを活用して、どのように交流人口を増やすのかについて検討する必要がある。

事務局 : 施営業者や関係機関等と連携を図りながら、交流人口の増に向けて検討していく。

委員 : 不足している介護人材を育成して十勝管内への定住を図るための取組である、ふるさと介護福祉士育成支援事業を今後も継続する必要がある。

事務局 : 今後も継続していきたいという思いを持っている。